

3Dデータ解析AI提供

建設向けから分野拡大

点群処理、テラバイト規模

ローカスブルー

ローカスブルー（東京都渋谷区、宮谷聡社長）は、3Dデータ専用人工知能（AI）エンジン「Deep3（ディープスリー）」の外部への提供を始める。これまで建設業界向けに提供してきた3Dデータ解析の中核技術を開発させ、テラバイト（テラは1兆）レベルの大量データ処理にも適用させる。自動運転や都市計画、災害復興など、広域の3Dデータを扱う分野での利用を想定する。2023年4月にベータ版の提供を開始、10月に発売する計画。

Deep3は、レーザースキャナーやスマートフォンなどで得られた3Dの点群データ（3次元座標を持った点の集合）の中から、AIが道路や建物を識別するといったもの。例えば自動運転を実現する場合、道路や



ユーザーは測定したデータをクラウドを介して同社に送り、同社が画像解析をして翌日には送り返すといった場で導入される実績を持つ。

Deep3はScanXの解析処理能力をさらに拡張させ、従来のメガバイト規模からテラバイト規模へと処理能力を高めた。今後は「ScanXとDeep3の2本柱で事業3D点群データから道路や建物を識別

料は従量課金型とする予定。

同社はこれまで建設業界向けに、スマホなどで撮影した画像情報から3D点群データを作成するサービス「ScanX」を月額3万円からの安価で提供し、のべ1万の建設現場で導入される実績を持つ。

宮谷社長は欧州エアバスや米国のイスラエルのIT関連企業で働き、2019年にスキャン・エックス（現ローカスブルー）を創業した。社員は多国籍で社内共通語を英語とするなど、当初から海外展開を意識した経営体制をとっている。

「当面は国内で市場開拓を進め、さらにアジア圏に事業を拡大させたい」（宮谷社長）という。

NFT所有 認証・確認

QRコードで即座に
synschismoがサービス

synschismo
（シンシズモ、東京

激動の経営

設立100周年

増幸産業（埼玉県川口市）は、鋳物業から粉砕機メーカーに転身し、2022年に会社設立100周年を迎えた。主力の石臼式粉砕機「スーパーマスコロ

増幸産業

④

次世代へバトン



「断られたら会社を外部に売却しようと考えていた」。増田はそう

社長の増田幸也は事業を成長軌道に乗せた。26年には次男の真也に社長を譲り、将来を託すつもり

医薬品など新用途に挑戦

人々と良好な関係を築きながら組織をまとめあげてきた。

増田は若いころ、先代と懇意にしていた経営コンサルタントから、お金の使い方や人との接し方など社会人の心得を学んだ。「次男も教え導いてくれる人を見つければ、経営者として成長してほしい」とエールを送る。

社員数30人弱の少数精鋭であり、ナノオーダーまでの微粒粉砕技術を持つ。近年ではセロースナノファイバー（CNF）やリチウムイオン電池（LIB）材料にも用途を拡大。CNF向けには、

これらの需要拡大に対応し、本社隣地の用地取得を計画する。本社敷地内や周辺に分散する砥石工場3拠点を集約し、生産性向上と生産能力増強を図る。

先代が社運をかけて開発した「割れない砥石」とスーパーマスコロイダー。増田はそれをさまざまな用途に広げ、海外展開を加速させた。産業構造が大きく変化する中、微粒粉砕技術を生かしてどう成長するか。増幸産業の挑戦は続く。

（敬称略）
（この項おわり。さいたま・苦瓜朋子が担当しました）